

## 開会のご挨拶



### 木村 容子 先生

東京女子医科大学 東洋医学研究所

お茶の水女子大学を卒業後、中央官庁入省(国家公務員1種)

英国Oxford大学大学院 修士課程修了

2000年 東海大学医学部(学士入学) 卒業

2002年 東京女子医科大学 東洋医学研究所 助教

2007年 同研究所 講師

2008年 同研究所 副所長

2010年 同研究所 准教授

東洋医学シンポジウムは、従来、日本東洋医学会学術総会開会前のサテライトシンポジウムとして開催されてきましたが、2015年度からは総会の正式なプログラム(スポンサーセミナー)として開催することになりました。

本シンポジウムは、歴代のコーディネーターである寺澤捷年先生(千葉中央メディカルセンター)、後山尚久先生(大阪医科大学 健康科学クリニック)が掲げてこられた「こんな時には漢方を」の基本コンセプトを継承しつつ、「漢方エキス製剤の上手な使い方ー困ったときの この一手ー」と題し、新たな目線で現代医療に漢方エキス製剤を取り入れる、実践的な方法をご紹介します。

明日からの実臨床に役立つシンポジウムとして二部構成としました。第一部は「困ったときの この一手」と題し、各領域の先生方が日常診療でどのようなことに困り、漢方治療を取り入れているのか、その具体例を提示していただきます。第二部では、各診療科で幅広く使用される「五苓散」と「柴胡加竜骨牡蛎湯」を取り上げ、有効例をとおして各処方での臨床応用と使用目標、すなわち“現代の口訣”を考えたいと思います。